

## 平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

### 1. 学校概要

学校名 特定非営利活動法人 横浜シュタイナー学園  
 種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )  
 所在地 〒226-0016  
神奈川県横浜市緑区霧が丘3-1-20  
 E-mail jimu@yokohama-steiner.jp  
 Website https://yokohama-steiner.jp  
 児童生徒数 男子 55名 女子 59名 合計 114名  
 児童・生徒の年齢 6歳～15歳

### 2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

#### 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園のESDへの取り組み

横浜シュタイナー学園では9年間の時間軸を通じた「縦のカリキュラム」と各学年ごとにメイン授業と教科を横断する「横のカリキュラム」によって編成された包括的なESDの取り組みを行っています。そこでは教育活動全体を通じてホリスティックなESDが実現されており、そのすべてを網羅することは現実的ではありません。ここでは特徴的な活動に絞ってご報告いたします。

#### ■ 自国文化理解に関する活動

横浜シュタイナー学園では、1年生の文字の導入から始めて、わたしたちの固有の文化が成立してきたプロセスを体験的に学んでいる。さらに、3年生では稲作や家づくり体験を中心に生活の営みを支える文化の学びがあり、4年生の郷土学、5年生から始まる日本史へとつながってゆく。さらに高学年では世界史と日本史の同時並行的な学びによって、自国文化を対象化する視点を育てている。このように、自国文化を深く理解していくためのひとつながりの学びをかたちづくる独自カリキュラムにより、ESDの要である自国文化理解を自然に実現している。以下はその具体例の一部である。

- 4年生の郷土学では、地元の里山から流れ出している梅田川を源流から下流まで徒歩で辿った。森のなかに湧き出す泉の流れを辿っていくと、流れはやがて田畑のなかを抜けていく小川となり、さらに下ると市街地に入ったところで鶴見側の支流である恩田川に合流し、さらに下っていくと工業地帯を抜けて鴨居の繁華街へと至る。子どもたちにとってこの体験は、川の流れとともに人の営みの発展プロセスを辿る歴史旅行でもあった。  
さらに、港を中心に発展を遂げた横浜の歴史の学びの後、港とその周辺の史跡を探訪して回った。港から放射状に街の歴史が発展していくプロセスを子どもたちは体験し、私たちが暮らす空間と時間の関係を肌で感じ取ることができた。
- 5年生は、日本史のエポック「縄文時代」の学びで、粘土に砂を混ぜ込み、縄目をつけ、本格的な縄文土器をつくりあげた。乾燥させた土器は、野外教育センターをお借りして野焼きで焼き上げた。
- 6年生は日本史の学びの一環として、毎年、飛鳥・奈良旅行を行っている。訪問した歴史文化施設の担当者からは、今年も「生徒の関心のもち方が深い」という感想をいただいた。
- 7年生（中1）の歴史では、鎌倉時代の学びとして鎌倉へ見学に行った。
- 8年生は、劇『東海道中膝栗毛』の上演に向けて、深川資料館、江戸東京博物館で江戸時代の町人文化や暮らしについて学んだ。また、資料をもとに、劇の衣装、道具を作成した。劇中で履く草履も、にいほる里山交流センター職員の指導の下に編み上げた。
- 9年生（中3）は、にいほる里山交流センターの職員による指導の下、里山の農家で編まれていた竹籠編み細工に取り組んだ。また、手仕事専科の時間には、

本格的な和裁による浴衣、甚平を手づくりした。

## ■ 国際理解教育に関する活動

横浜シュタイナー学園では、世界史の学びを通して世界地理と多様な文化の基礎を理解し、その土台の上に高学年では近・現代史にも触れていく。また、英語と中国語の2か国語を1年生から継続的に学び、言語文化を通して国際感覚を育てている。1年生から積み上げることにより、高学年ではコミュニケーション能力もかなりついてくるため、ここ数年、海外との交流も積極的に行うようになった。その活動の一部を以下に列挙する。

### 1. 海外の学校との文通（英語科）

- 昨年の6年生に続き、今年度の6年生も韓国の平은숲학교(Prunsup Waldorf School / 緑の森の学校) および中国の成都华德福学校(Chengdu Waldorf School)と英語で文通を始めた。韓国からは返事がきて2度目の手紙を出した。英語の時間以外でも、6年生は韓国の国のなりたち・文化について、学園の体育教師でもある在日3世の韓朱仙(ハン・チュソン)先生から話を聞く機会をもった。自分たちの名前や、好きな韓国料理をハングルでどう書くか教えてもらった。
- 7年生は、アメリカのWaldorf School of Orange County(カリフォルニア州)と文通を始めた。このクラスの生徒が保護者の転勤でその学校に転校したことがきっかけで、そこでは第2外国語として日本語を学んでいることもあり、お互いに日本語と英語と両方の言語を使って文通に取り組むことにした。具体的には、アメリカの学校から日本語の手紙が届き、こちらから英語で返事を出したところである。また向こうから今度は英語で手紙が来る予定で、こちらからはそれに対して日本語で返事を書く方向で話している。互いの家族、趣味などの話題から始まって、学校や社会、文化的な違いなどへの気づきにつながるような活動になればと思う。

### 2. ゲストティーチャーによる授業

英語のゲストティーチャーとして、海外および日本在住の外国人の方をお招きし、英語で話を聞き、ワークショップを行った。

- 5月20日 ヨハネス・キュールさん(自然科学)  
ドイツから来日されたキュール氏の、電気と環境についての講座を受けた。英語で通訳ありの講座ではあったが、新しい語彙にも触れることができた。
- 3月10日 マイケル・リッチさん(横浜桐蔭大学講師)  
イギリス人ミックさん(マイケルさんの通称)をお迎えし、身体を動かしながらのゲームから始まって、「イギリス」のイメージ、そしてミックさんが日本に来て困ったことは何かを生徒たちに考えさせ、英語での質疑応答を行った。普段当たり前を感じていることが、言葉が分からないとどのように感じるのか、ということを生徒たちは実感できたと思う。例えば、自動販売機で飲み物を選ぶときに、書いてある文字が読めないとどうなのか。また、お風呂に入ると

きのマナーの違いや、込み合った電車の体験が外国から来た人にとってどのような体験なのかなど、異文化について生徒たちに身近で具体的な例をあげながら、分かりやすく体験できた授業だった。

- 11月15日 ジョン・ビリングさん（国際的ライアー奏者）  
イギリスのライアー奏者によるコンサートを4～9年生が鑑賞した。アイルランドの曲、クラシックの演奏を聴き、ジョンさんと音楽教員によるライアー伴奏にあわせ、4年生がわらべ歌『うさぎ』を木笛で堂々と演奏した。外部に向けたコンサートもあわせて開催し、今年も盛会となった。

### 3. 外国からの方々との交流

- 4月13日 オラーナ・シュタイナー学校の生徒との交流（オーストラリア）  
昨年度に文通していたオーストラリアの Orana Steiner School の生徒たちが来校し、交流の会を持った。互いの自己紹介を外国語で行い（英語話者は日本語で、日本語話者は英語で）、自由に歓談した後、両校の生徒の発表を行った。オーストラリアの生徒たちは歌、学園の生徒たちは自分たちの9年間の学びについて用意したものを発表し、日本の歌を合唱した。同じシュタイナー学校ということで、共通点も多く、楽しい会だった。
- 4月29日 アジア各国の教員をお迎えして  
AWTC（アジア・ヴァルドルフ教員会議）でアジア各国から集まった先生方を学園にお招きし、9年生が学園紹介の発表と学校案内を行った。英語や、第2外国語として学んでいる中国語を実際に使って、知らない人とコミュニケーションを行うよい機会となった。「通じた！」という喜びや、「言いたいことが言えない」というもどかしさを実感していたようだ。
- 6月8日 オレンジ・カウンティ校 井上真美先生（アメリカ）  
アメリカの Waldorf School of Orange County で日本語を教える井上真美先生にお越しいただき、英語と日本語で当地の様子を話していただいた。
- 11月27日 英語劇発表（アイルランド文化の学び）  
9月から台本読みを開始した。演目がアイルランドの話なのでアイルランドについてよりよく知るために、アイルランド料理を食べに行った。料理店では、アイルランド人のご主人が伝統楽器やギターを用いてゲール語でアイルランドの歌を披露してくださった。こちらからもアイルランドの歌を合唱し、たいへんおいしく、楽しい会となった。11月末の発表に向けて、台詞を覚え、演技の練習をし、英語の台詞を自然に言えるように各人が努力した。

### 4. その他

- 北欧神話や古事記の学びなど、神話世界の学びを通して、さまざまな文化の根底に流れる原型的イメージを体験している。（4年生）
- 韓朱仙先生（「海外の学校との文通」の項参照）のお話を通して、日朝韓の異なる歴史認識や在日朝鮮人文化を理解し、東アジアの平和について考える授業を行った（9年生）。
- DEAR 教材「地球の食卓、私の食卓」ワークショップ。（8・9年生）
- DEAR 教材「パーム油の話」を用いて、ロールプレイ会議付きのワークショップ学習を行った。（9年生）

## ■ 地域素材の活用

地域素材の活用としては、学園に隣接して広がる新治市民の森の活用と、その里山を管理する NPO にはる里山交流センターとの交流事業が継続的な取り組みとなっている。今年は加えて、横浜市環境創造局と連携している市民活動・新治市民の森愛護会とのつながりで、より豊かな活動を展開できた。

- 地産地消で取り組んだ家づくり  
地域の里山保全活動（新治市民の森愛護会）とのつながりができ、3年生が毎年取り組んでいる家づくりの授業を地産地消で行うことができた。家の柱となる竹材は里山から子どもたちの手で切り出し、また、屋根に葺く芦も同じ里山からいただき、みずから束ねて運び出しました。子どもたちの手によって校庭に建てられた本格的な家は、年度末に子どもたちが自ら解体して愛護会に引き取っていただいた。地域に田畑をお借りして続けている、稲作、畑作体験とともに、今後も継続していきたいと考えている。
- 谷戸田での米づくり  
地域のたんぼの会の協力を得て、谷戸田を一区画お借りし、田植えから収穫までを一貫して体験している。泥まみれで代掻きから田づくりを体験し、収穫した稲の脱穀も体験。収穫した米は子どもたちが自ら脱穀し、それを精米して、里山の古民家（旧奥津邸）のかまどで炊いて食した。稲わらは手づくりでお正月飾りのしめ縄にして飾った。稲作の指導は、教員が交流センターの谷戸田を守る会に参加して学ばせていただいた。（3年生）
- 植物学の生きた学習材料として  
三保市民の森、新治市民の森は、日本有数のシダ類の宝庫だと言われている。5年生の植物学では、森のなかで羊歯や菌類、広葉樹林、針葉樹林の観察を行い、学びに活用している。
- 川の流れを辿る歴史の旅  
自国文化理解の項を参照のこと。
- 里山の産物を利用した工芸体験  
8年生の草鞋づくり、9年生の竹籠編みの体験（自国文化理解の項参照）
- 学園周辺ぐるっと探訪会  
学園周辺の史跡やお世話になっている施設、里山などを保護者が訪問し、学園のESD活動に対する理解を深めた。保護者も地域に親しむことで、ESDの幅が広がっていく。
- ほたる舞う夕べの集い  
新治市民の森の梅田川・一本橋めだか広場でほたるの鑑賞会を開催。初夏の夕暮れからホタルが次第に舞い始め、光が群舞する8時頃まで、大人も子どももホタルの繊細な光を愉しんだ。
- 里山講座の記録が完成  
にはる里山交流センター職員の吉武美保子さんによる里山講座（2014年3月開催）の記録を冊子にまとめ、主に学内に向けて配布した（添付資料『大都市の里山は未来につなぐたからもの』）。図版の利用に関しては横浜市環境創造局にご協力いただいた。
- たき火の楽しさを味わう

地元の街づくり活動を通じて知り合ったオーガナイザーを通じて、若葉台地域北部に広がる広大な畑を囲む林のなかで思う存分たき火ができる広場をお借りしている。焼き芋大会、おこわづくり、餅つきなどを学園の父親の会が主催し、遊びを通して生きた生活の学びを楽しんでいる。

- 家めぐりゲームで防災訓練

ハロウィンの時期、学園周辺に点在する保護者家庭を子どもたちがまわってキーワードを集める防災ゲームを学園地域交流の会と学童グループが共同で開催。楽しみながら地域のセーフティネットを育む好事例ができた。

## ■その他の教育活動

- 3年生の生活の学び

学園では、3年生の時期に体を使って生活に関わる体験に集中的に取り組むカリキュラムが組まれている。

- a) 家づくり

クラスの子どもたち全員が入れるほどの家を実際に建てた。近隣の里山で、愛護会の方々の指導を受け、柱となる竹、屋根に葺く葦を刈った。さらに皆で地鎮祭の儀式を行い、竹を素材に竪穴式住居スタイルの家をほとんど子どもたちの力で建てることのできた。

- b) 職人の仕事の学び

横浜市の給食用のお豆腐をつくっているお豆腐屋さんに来校いただき、豆腐づくりを体験。その後、校庭の畑で収穫した大豆から、自力で豆腐を作った。

天然酵母を使い、発酵から焼き上がりまで3日間かけて、おいしいパンを焼き上げた。地域のNPOが運営する天然酵母パン工房「ぷかぷか」にご協力いただいた。

指物職人さんにも来校いただき、箸作りを体験した。

- c) 米づくり、畑づくり

新治市民の森の谷戸にある田んぼで、無農薬の稲作を代掻きから収穫まですべてを体験した。

徒歩圏にある校舎の大家さんの畑で、里芋などを育て、収穫した。

- 2016年2月 2016年2月 十返舎一九『東海道中膝栗毛』を上演（8年生）

定員300名のホールを借りて本格的な舞台をつくりあげた。大道具、小道具、衣装のデザインと製作まで生徒が自分でを行い、初めての和楽器演奏にも取り組んだ。江戸の笑いを取り入れ、見る人に笑いを届ける体験をもてた。自分で楽しむのではなく、他の人たちを楽しませるための努力を重ねることを通して、チームワークの大切さを学ぶことができた。

- 卒業プロジェクト（9年生）

9年生（中3）の卒業プロジェクトでは、約1年をかけて、自由課題として以下のテーマに取り組み、保護者やゲスト約140名の聴衆の前で堂々と発表した。発表後には質疑応答がなされ、質問者の問いにきびきびと答えていた。以下にプログラムに載せた生徒の案内文を引用する。

- a) 「ギター」(女子)  
わたしはギターを弾くのが好きです。しかし、ギターについて全く知らないで、その歴史について学び、発表したいと思いました。発表の最後にはギターの演奏をしたいと思います。
- b) 「イルカのいる島 御蔵島」(男子)  
僕は小6から中3まで毎年夏に御蔵島に渡り、ドルフィンスイムを体験し、島の魅力にひかれ、この題材に決めました。発表の時は、御蔵島の歴史、魅力、イルカなどについて説明したいと思います。
- c) 「人形劇」(女子)  
今までの印象だと、人形劇というと、大きな人形で、感情表現が豊かなものだと思っていましたが、シュタイナー幼稚園でとりいれるような人形劇は淡々と静かに進んでいくのを見て、人形劇に取り組んでみたいと思いました。
- d) 「光と影 球体を題材として」(男子)  
僕は卒業プロジェクトを通して絵画や画家、鉛筆画について研究しました。美術の授業で球体がうまく描けなかったこともあり、主に鉛筆で球体を描くことについて取り組みました。光と影をデッサンで描くすばらしさを伝えられたらと思っています。
- e) 「アドルフ・ヒトラーという人」(男子)  
皆さん、ヒトラーと聞いて何を思いますか？ ひどい人、独裁者、ユダヤ人、戦争などでしょうか？ 確かにそれらの単語は彼にあてはまります。しかし、彼だって人、他の面もあるはずです。ぼくが発表をして少しでもヒトラーについて何か感じてもらえるように頑張ります。
- f) 「飛行機誕生物語」(男子)  
僕はライト兄弟のことを発表します。ライト兄弟の飛行機のしくみの話をするとき自分で作った模型を見せながら説明しようと思っているので、皆さん楽しみにしてください。
- g) 「飛鳥に眠る動かぬ命」(女子)  
「飛鳥」と聞くと、日本史で出てくる飛鳥時代を想像する方が多いかと思います。奈良県に存在する多くの謎に包まれた“飛鳥”の世界、そしてそこに眠る多くの遺跡。実際にその場に行った気になれる様な、そんな発表を心がけたいと思います。
- h) 「忍者の使命」(男子)  
ほとんどの方が忍者について偏った考え方を持っていると思います。というよりか、『忍者とは』ということを実際に考えたことがある方も少ないと思います。なので今回はみなさんに忍者のことを少しでも知っていただく『忍者』とは何者かということと、戦国の合戦の裏側で忍者がどんな活躍ぶりを見せたかということ少ない情報ですが自分の見解も加えながら発表しようと思います。
- i) 「和菓子から見た日本文化」(女子)  
和菓子は日本文化が凝縮されたものです。今回は日本人ならではの繊細な美意識から育まれた様々な和菓子を目に見える形で発表します。実演も予定していますので楽しんでいただければ幸いです。
- j) 「舞と踊と振」(女子)  
和銅五年(712年)に完成されたという古事記に、アメノウズメノミコトと

いう女神が笹を振りながら踊ったという神話が残っています。遙か昔からある舞踊ですが、いつ頃から舞台芸術として成立したのか。歌舞伎の中の舞踊から発展した日本舞踊を中心に扇子や邦楽についても触れて発表します。

k) 「森と人」(男子)

人が森、山に対してどう思いどう考えたか、またどのように森に手を入れたりしたかを調べました。そして最後に自分だったらどうするか、どうなっしてほしいかを考えます。

l) 「ショパンの夜想曲」(男子)

ある時自分の中に飛び込んできたひとつの形式、そして確かに感じ取った別世界——。その元を辿ればロマン派の一人の作曲家に当たるという事は知っていたが、その2つの何かには多くの疑問を抱いていた。今回のその形式から彼の世界に入っていこうと思う。

### ■教職員保護者研修および交流活動

- 2015年4月25日～5月1日、第6回アジア・ヴァルドルフ教員会議(AWTC)を全国の全日制シュタイナー学校6校および日本シュタイナー幼児教育協会、ルドルフ・シュタイナー教育芸術友の会(ベルリン)とともに共同開催した。アジア地域の教員を中心に380名もの参加があり、学びと文化交流を深めた。(参加国:インド、韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ドイツ、スイス、ニュージーランド、等)  
<http://waldorf.jp/awtc2015/report.php?menu=jp>
- 2015年8月1日、横浜市立幸ヶ谷小学校で開催された「第1回ユネスコスクール神奈川県大会」に教職員2名で参加し活動報告を行った。
- 2015年8月14日、東海大学教養学部、神奈川県立有馬高校、かながわ開発教育センターとともに、合宿型ワークショップ「UNESCO/ESD 交流セミナー2015～未来の学校について考えてみよう～」の企画会議を学園で行った。
- 2015年9月19日～20日、東海大学で開催された「UNESCO/ESD 交流セミナー2015～未来の学校について考えてみよう～」に教員2名が参加した。
- 2015年10月、第6回ESD大賞に「イメージによる歴史の体験、自らつくる歴史教科書、歴史を未来につなぐ学び」をテーマに応募した。入賞は逃したが、生きた歴史の学びのモデルを示せたと自負している。
- 2015年11月20日、鎌倉ユネスコ協会、横浜ユネスコ協会のメンバーが学園を見学。ユネスコスクールとの連携について意見交換を行った。
- 2015年12月、ACCUのご紹介で株式会社フマキラー提供のパンジー400ポットの寄贈を受け、子どもたちと保護者が植栽を行った。
- 2015年12月、平成27年度ユネスコスクール・アンケートを提出。
- 2015年12月4日、第7回ユネスコスクール全国大会のイベントに職員1名が参加。イベント会場を借りて開催されたユネスコスクール神奈川県連絡協議会準備会議にも参加し、同連絡協議会発足に携わった。あわせて、2016年8月27日に第2回ユネスコスクール神奈川県大会の受け入れ校として承認された。
- 2016年1月、第7回「ユネスコスクールESDアシストプロジェクト」に申請。申請プロジェクト名は『英語ゲスト授業による世界市民体験プロジェクト』。言



語活動を通して体験的に異文化に触れ、それらの体験から自らを対象化する視点を獲得する活動を毎年行っている。今回はその実践に必要な費用についての助成を申請した。

- 2016年2月、東海大学教養学部の ASPUnivNet 事業計画立案に協力。第2回ユネスコスクール神奈川県大会の海外ゲスト講師をユネスコスクール神奈川県連絡協議会とともに選定。
- 2016年3月、第6回「ユネスコスクール ESD アシストプロジェクト」助成の報告書提出（予定）。
- 横浜市内のフリースクールを取りまとめている横浜市子ども支援協議会に登録し、横浜市教育委員会との様々な連携事業に参加した。
- 横浜市の街づくり条例に基づく地域の街づくり活動に参加し、横浜市の認定を目指して街づくりプランの草案づくりに協力している。
- 6月に学園祭とオープンディを併催、12月にはクリスマスイベントとしてのオープンディを開催し（添付資料）、地域の方を含む多数の方々に学園の温かな雰囲気を感じていただいた。
- ビオキッズなど様々な環境系、子育て系のフェスティバルに出展した。

#### ■教員養成

- この教育の担い手を自分たちで育成し未来につなげていくために、シュタイナー教育の教員養成を手がけてきたグループと連携して、独自の教員養成プログラムを立ち上げた（2年間全8回）。2015年7月にプレセミナーを開催、11月から本講座がスタートし、現在約30名の受講者が学んでいる。学園の現役専科教員の参加もあり、学園の質保証も担っている。  
この教員養成では公立学校の現任教員も多数学んでおり、公教育の質的向上に資する取り組みともなっている。

#### ■保護者の活動

- 学園創立10周年を記念する行事を教員・生徒・保護者全員参加で開催した。
- 学園創立10周年記念事業として、校舎の壁の塗り替え工事を保護者が行った。
- たき火、家めぐりは「地域素材の活用」の項を参照。
- その他、保護者による様々な活動が学園を支えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（保護者も巻き込んだ活動実践）